

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
古代日本文学研究A(散文)	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	4	1	古代日本文学における散文を輪読する。古典文学読解の基礎能力や、神話や物語の話型、作中和歌の特徴などの基本的理解をふまえたうえで、神話や物語がかかえている諸問題を掘り起こすために必要な資料調査・分析・考察の方法を身につける。	1. 神話や物語の話型を説明できる。(知識・理解) 2. 作中和歌と神話・物語の関係性について説明できる。(知識・理解) 3. 神話・物語を精読し、そこに含まれる諸問題を提起できる。(思考・判断・表現) 4. 自らの提起した問題・課題を、客観的方法で伝えられる。(思考・判断・表現)	1. 神話や物語の話型を基本的に説明できる。(知識・理解) 2. 作中和歌と神話・物語の関係性について基本的に説明できる。(知識・理解) 3. 神話・物語を精読し、そこに含まれる諸問題をある程度提起できる。(思考・判断・表現) 4. 自らの提起した問題・課題を、ある程度客観的方法で伝えられる。(思考・判断・表現)
古代日本文学研究B(韻文)	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	4	1	古代日本文学における韻文を輪読する。韻文、特に和歌は古代文学の中心を成すものであり、まずはそのことに関する文学史的な基本知識と、当時の文化・社会の状況、和歌そのものの成り立ちなどについての基本知識をふまえて、一首ずつ丹念に読解・批評・鑑賞するために必要な資料調査・分析・考察の方法を身につける。	1. 古代日本文学における和歌史を、当時の文化や社会の状況もふまえて説明することができる(知識・理解) 2. 和歌資料を調査し分析することができる(技能) 3. 先行研究を整理し、問題点を見つけ出し、自らの説を立ち上げることができる(思考・判断・表現) 4. 和歌を読解・鑑賞することができる(思考・判断・表現) 5. 自らの提起した問題・課題を、客観的方法で伝えられる。(思考・判断・表現)	1. 古代日本文学における和歌史の流れを説明することができる(知識・理解) 2. 和歌資料を調査し分析する方法を身につけている(技能) 3. 先行研究を整理し、問題点を見つけ出すことができる(思考・判断・表現) 4. 和歌を読解・鑑賞することができる(思考・判断・表現) 5. 自らの提起した問題・課題を、ある程度客観的方法で伝えられる。(思考・判断・表現)
中・近世日本文学研究B(韻文)	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	4	1	中・近世文学における韻文を輪読する。韻文、特に和歌は古典文学における主要な文学ジャンルであり、まずは、そのことに関する文学史的な基本知識の確認をふまえて、一首ずつ丹念に読解・批評・鑑賞するために必要な資料調査・分析・考察の方法を身につける。	1. 中近世日本文学における韻文の歴史を、ジャンルの変遷や文化・社会の状況もふまえて説明することができる(知識・理解) 2. 和歌・連歌・俳諧等に関する資料を調査、分析し、適切な注釈を付けることができる(知識・理解) 3. 先行研究を整理し、問題点を見つけ出し、自らの解釈を提示することができる(思考・判断・表現) 4. 3に基づき、中近世韻文作品に関する優れた研究を行う(思考・判断・表現)	1. 中近世日本文学における韻文の歴史の流れを説明することができる(知識・理解) 2. 和歌・連歌・俳諧等に関する資料を調査し分析する方法を身につけている(知識・理解) 3. 先行研究を整理し、問題点を見つけ出すことができる(思考・判断・表現) 4. 3に基づき、中近世韻文作品に関するレポートを執筆することができる(思考・判断・表現)
近代日本文学研究A(散文)	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	4	1	近代文学における散文を輪読する。具体的には、文学史および研究史の基本的知識を確認したうえで、作品を読解・批評・鑑賞するために必要な資料調査・分析・考察の方法を身につける。	1. 文学史および研究史の中に、対象とする近代散文を位置づけ評価することができる。(知識・理解) 2. 近代散文を鑑賞するための専門的な読解技術が身に付いている。(知識・理解) 3. 近代散文を専門的に読む知識と方法を修得し、それを自らの研究テーマに引き付けて問題・課題を提起することができる。(関心・意欲・態度) 4. 自らの提起した問題・課題を、客観的方法で伝えられる。(思考・判断・表現)	1. 文学史および研究史の中に、対象とする近代散文を位置づけ評価することができる程度はできる。(知識・理解) 2. 近代散文を鑑賞するための専門的な読解技術がある程度は身につけている。(知識・理解) 3. 近代散文を専門的に読む知識と方法を修得し、それを自らの研究テーマに引き付けて問題・課題を提起することができる程度はできる。(関心・意欲・態度) 4. 自らの提起した問題・課題を、ある程度客観的方法で伝えられる。(思考・判断・表現)
日本語研究A(古代語)	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	4	1	古代日本語について、文学研究にも資することをめざして、さまざまな観点からの調査・研究を行う。古代日本語は近代日本語とはいろいろな点で異なり、内省もきかないものであるから、まずはその点に関する基本的な知識とともに、古代日本語を調査するにあたっての方法を学び、それを具体的な古典作品に適用する。	1. 古代日本語に関する専門的な知識を習得し、古代日本語の特徴を理解できるようになる。(知識・理解) 2. 古代日本語を調査するための方法・技能が十分使えるようになる。(技能) 3. 古代日本語による表現のありように即して思考・判断し、その結果を口頭あるいは文章で表現できるようになる。(思考・判断・表現) 4. この科目をとおして、古代日本語あるいは古代文学に対する関心・意欲・態度を研究レベルまで強めることができるようになる。(関心・意欲・態度)	1. 古代日本語に関する専門的な知識をある程度は習得し、古代日本語の特徴の幾分かを理解できるようになる。(知識・理解) 2. 古代日本語を調査するための方法・技能が一通り使えるようになる。(技能) 3. 古代日本語による表現のありように即して思考・判断し、その結果を口頭あるいは文章で最低限は表現できるようになる。(思考・判断・表現) 4. この科目をとおして、古代日本語あるいは古代文学に対する関心・意欲・態度を一応強めることができるようになる。(関心・意欲・態度)
漢文学研究	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	4	1	漢文学作品を輪読し、その文学史上、また思想史上の意義を明らかにする。漢文訓読の基礎と、日本文学に大きな影響を与えた中国の歴史、また思想、文学に関わる基本的知識をふまえ、作品を読解・批評・鑑賞するために必要な資料調査・分析・考察の方法を身につける。	1. 漢文および漢文学に関する専門的な知識を習得し、その世界が十分に理解できるようになる。(知識・理解) 2. 白文の読解練習をとおして、漢文訓読の技能が大学院レベルで身に付く。(技能) 3. 漢文学の特徴を捉え、日本文学との相異に関して思考・判断し、その成果を口頭あるいは文章で適切に表現できるようになる。(思考・判断・表現) 4. 漢文学の日本文学に対する影響に関する広範な関心と、その影響に関する意欲と態度を研究レベルまで強めることができるようになる。(関心・意欲・態度)	1. 漢文および漢文学に関する専門的な知識を習得し、その世界がある程度は理解できるようになる。(知識・理解) 2. 白文の読解練習をとおして、漢文訓読の技能が学部レベル以上で身に付く。(技能) 3. 漢文学の特徴を捉え、日本文学との相異に関して思考・判断し、その成果を口頭あるいは文章でほぼ表現できるようになる。(思考・判断・表現) 4. 漢文学の日本文学に対する影響に関する広範な関心と、その影響に関する意欲と態度を相応に強めることができるようになる。(関心・意欲・態度)
書誌学研究	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	4	1	所謂〈和本リテラシー〉について、古代から現代に至るメディアの変遷を軸に、具体的なモノとしての文献資料の性質とその扱い方を実践的に取り扱う。さらには現代の機械可読テキストや電子化された画像メディアについても、それぞれのメディアの特質と限界とについて具体的かつ詳細に検討する。	1. 文献資料(書物)についての深い書誌学的知識を獲得する。(知識・理解) 2. 毛筆文字や変体仮名を読むためのスキルを身につける。(技能) 3. 2に基づいて高度な書誌調査を実践し、課題の発見や考察を行うことができる。(思考・理解・表現)	1. 文献資料(書物)についての書誌学的知識を身につける。(知識・理解) 2. 毛筆文字や変体仮名を読むことができるようになる。(技能) 3. 2に基づいて書誌調査を実践する。(思考・理解・表現)
日本文学基礎研究A(古代文学)	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	4	1	上中古・近世日本文学作品のうちから、対象を絞り精読することによって、その作品の特質や問題点を具体的に理解する。また、その作品が当時の、あるいは現在の社会においても意義についても理解する。また、演習形式を取ることで、問題を提起し、客観的手法によって課題を解決する能力を身につける。	1. 対象作品の表現における特徴を説明できる。(知識・理解) 2. 対象作品の時代的背景、社会とのかかわりについて十分説明することができる。(知識・理解) 3. 対象作品を理解するための着眼点を十分に提起することができる。(思考・判断・表現) 4. 対象作品を理解するための着眼点を課題とし、客観的な手法によって解決することができる。(思考・判断・表現)	1. 対象作品の表現における特徴を基本的に説明できる。(知識・理解) 2. 対象作品の時代的背景、社会とのかかわりについてある程度説明することができる。(知識・理解) 3. 対象作品を理解するための着眼点をある程度提起することができる。(思考・判断・表現) 4. 対象作品を理解するための着眼点を課題とし、客観的な手法によってある程度解決することができる。(思考・判断・表現)

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
日本文学基礎研究B(近代文学)	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	4	1	近代日本文学作品のうちから、対象を絞り精読することによって、その作品の特質や問題点を具体的に理解する。また、その作品が当時の、あるいは現在の社会においても意義についても理解する。また、演習形式を取ることによって、問題を提起し、客観的手法によって課題を解決する能力を身につける。	1. 対象作品の表現における特徴を説明できる。(知識・理解) 2. 対象作品の時代背景、社会とのかかわりについて十分説明することができる。(知識・理解) 3. 対象作品を理解するための着眼点を十分に提起することができる。(思考・判断・表現) 4. 対象作品を理解するための着眼点を課題とし、客観的な手法によって解決することができる。(思考・判断・表現)	1. 対象作品の表現における特徴を基本的に説明できる。(知識・理解) 2. 対象作品の時代背景、社会とのかかわりについてある程度説明することができる。(知識・理解) 3. 対象作品を理解するための着眼点をある程度提起することができる。(思考・判断・表現) 4. 対象作品を理解するための着眼点を課題とし、客観的な手法によってある程度解決することができる。(思考・判断・表現)
英文表現法I(英文表現の基礎)	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	2	1	(The Course Description) This is an introductory writing class for first year students in the MA course. For those students who choose to write their MA thesis in English, it is very important to get as much experience in writing English as possible during the first year. The teacher will work individually with students to improve each student's writing. Students will write partial essays (with multiple drafts) and have smaller assignments as well. The first semester will focus on narrative, summary, and reaction writing. (科目概要) 修士論文のレベルに即した英語の表現技術を身につけることができるための基礎的な練習を、いくつかの短めの文章を仕上げる。	(The Aim of the Course) The student(s) will improve their academic writing skills, including content, organization, and language use. (知識・理解、思考・判断・表現)	(The Aim of the Course) The student(s) will improve their academic writing skills, including content, organization, and language use. (知識・理解、思考・判断・表現)
英文表現法II(英文表現の応用)	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	2	1	(The Course Description) The teacher will work individually with students to improve each student's writing. Students will write two essays (with multiple drafts) and have smaller assignments as well. This semester focuses on argumentative and literary analysis. (科目概要) 英語表現法Iの成果をふまえて、さらにその技術の向上をめざして、議論的あるいは文学的分析を重点とした文章を書く練習を行い、個別に指導する。	(The Aim of the Course) The student will further improve her academic writing skills, increasingly focusing on her theses. (知識・理解、思考・判断・表現)	(The Aim of the Course) The student will further improve her academic writing skills, increasingly focusing on her theses. (知識・理解、思考・判断・表現)
論文英語表現法I(論文英語の基礎)	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	2	2	(Course Description) This is an advanced writing class for second year students in the MA course. Since students will be preparing to write their MA theses in English while taking this course, we will concentrate on the skills they need to write a thesis in English. These include research methods, focusing the student's thesis topic, the effective use of quotations, close analysis of the text, and logical presentation of the student's argument. At the end of the first semester, students will be ready to begin writing their thesis. (科目概要) 調査方法、効果的な引用法、資料分析法、論理的な議論法などを含み、修士論文の準備として、英文論文の執筆法の練習を行う。	(The Aim of the Course) At the conclusion of the course, students will know how to conduct research for their theses, how to use quotations effectively, how to critically analyze the text they are writing about, and how to logically present their arguments. They will be ready to begin writing their theses. (知識・理解、思考・判断・表現)	(The Aim of the Course) At the conclusion of the course, students will know how to conduct research for their theses, how to use quotations effectively, how to critically analyze the text they are writing about, and how to logically present their arguments. They will be ready to begin writing their theses. (知識・理解、思考・判断・表現)
論文英語表現法II(論文英語の応用)	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	2	2	(Course Description) Drawing on the skills learned during the first semester, students will actually begin writing their theses. Each week, students will present drafts of their theses and receive advice on how they may be improved. In addition to honing their writing skills, students will discuss the following topics with the teacher: chapter divisions, the transition from one chapter to another, and the organic unity of the thesis as a whole. (科目概要) 論文英語表現法Iの成果をふまえて、実際の修士論文の草稿を章単位で執筆し、毎週、それを提出して、英語表現に関する担当者のアドバイスを受けるとともに、次章の内容・文章について議論してゆく。	(The Aim of the Course) At the conclusion of the course, students will have revised the manuscript of their theses until both they and their instructor are satisfied with the results, both in terms of style and content. Students will have successfully completed writing their MA theses. (知識・理解、思考・判断・表現)	(The Aim of the Course) At the conclusion of the course, students will have revised the manuscript of their theses until both they and their instructor are satisfied with the results, both in terms of style and content. Students will have successfully completed writing their MA theses. (知識・理解、思考・判断・表現)
英語学特講A(文学研究のための英語学)	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	4	1	この授業では、おもには英文学を研究する者にとって必要なレベルの英語学の知識を提供していく。英語学は、英語という言葉そのものを研究対象とするものではあるが、その知見は、英語による文学作品を読解・研究するうえでも有効に活用できる側面もある。そうした英語学の側面を重点的に論じていく授業を展開する。	英語学の幅広い事項について、他者に正確に説明することができる。(知識・理解) 英語学の知識を応用して、深いレベルで文学研究をすることができる。(思考・判断・表現)	英語学の基本的な事項について、他者に正確に説明することができる。(知識・理解) 英語学の知識を応用して、文学研究をすることができる。(思考・判断・表現)
日本文学基礎研究B(近代文学)	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	4	1	近代日本文学作品のうちから、対象を絞り精読することによって、その作品の特質や問題点を具体的に理解する。また、その作品が当時の、あるいは現在の社会においても意義についても理解する。また、演習形式を取ることによって、問題を提起し、客観的手法によって課題を解決する能力を身につける。	1. 対象作品の表現における特徴を説明できる。(知識・理解) 2. 対象作品の時代背景、社会とのかかわりについて十分説明することができる。(知識・理解) 3. 対象作品を理解するための着眼点を十分に提起することができる。(思考・判断・表現) 4. 対象作品を理解するための着眼点を課題とし、客観的な手法によって解決することができる。(思考・判断・表現)	1. 対象作品の表現における特徴を基本的に説明できる。(知識・理解) 2. 対象作品の時代背景、社会とのかかわりについてある程度説明することができる。(知識・理解) 3. 対象作品を理解するための着眼点をある程度提起することができる。(思考・判断・表現) 4. 対象作品を理解するための着眼点を課題とし、客観的な手法によってある程度解決することができる。(思考・判断・表現)
英文表現法I(英文表現の基礎)	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	2	1	(The Course Description) This is an introductory writing class for first year students in the MA course. For those students who choose to write their MA thesis in English, it is very important to get as much experience in writing English as possible during the first year. The teacher will work individually with students to improve each student's writing. Students will write partial essays (with multiple drafts) and have smaller assignments as well. The first semester will focus on narrative, summary, and reaction writing. (科目概要) 修士論文のレベルに即した英語の表現技術を身につけることができるための基礎的な練習を、いくつかの短めの文章を仕上げる。	(The Aim of the Course) The student(s) will improve their academic writing skills, including content, organization, and language use. (知識・理解、思考・判断・表現)	(The Aim of the Course) The student(s) will improve their academic writing skills, including content, organization, and language use. (知識・理解、思考・判断・表現)

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
中・近世英文学研究A(中世英文学)	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	4	1	中・近世の英文学作品を取り上げて原文で精読する。それにより、当時の文学作品及び文化的・社会的背景への理解と関心を深める。また、受講者各自が的確に意見を表明するためのトレーニングを重ね、大学院レベルでの英文学研究の素地を形成する。	1. 中・近世の世の英文学作品を原文で精読する力を身につける。(知識・理解・技能) 2. 中・近世の英文学の特徴を、当時の文化的・社会的背景と共に理解する。(知識・理解) 3. 1、2を踏まえて、関心を持ったテーマや箇所について分析できる。(知識・理解・思考・判断・表現)	1. 中・近世の世の英文学作品を原文である程度、精読することができる。(知識・理解・技能) 2. 中・近世の英文学の特徴を、当時の文化的・社会的背景をある程度理解している。(知識・理解) 3. 1、2を踏まえて、関心を持った テーマや箇所について、何らかの分析できる。(知識・理解・思考・判断・表現)
近・現代英文学研究I(近代イギリス文学)	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	2	1	近代のイギリス小説を原文で精読する。英語で書かれた作品を読み、解釈する力を育成し、その過程で、各自が抱いた関心や疑問点について、より深く掘り下げて考える力を養っていく。毎回の担当者を中心に発表形式とし、その後にディスカッションを行う。受講者全員の積極的な参加が求められる。	1. 近代のイギリス小説を原文で精読する力を身につける。(知識・理解・技能) 2. 自分の関心・疑問点について、当時の文化的・社会的背景と共に理解した上で、考察することができる。(知識・理解・思考・判断・表現) 3. 自発的に関心・疑問を持ち、英文の解釈、背景の調査に積極的に取り組む姿勢を持つ。(思考・態度)	1. 近代のイギリス小説を原文で精読する力がある程度ある。(知識・理解・技能) 2. 自分の関心・疑問点について、当時の文化的・社会的背景をある程度理解し、考察することができる。(知識・理解・思考・判断・表現) 3. 作品の精読を通して、何らかの疑問点を持ち、英文の解釈や背景の調査に取り組む。(思考・態度)
近・現代英文学研究II(近代イギリス文学)	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	2	1	現代のイギリス小説を原文で精読する。英語で書かれた作品を読みこなす力を育成し、その過程で各自が抱いた関心や疑問点について、より深く掘り下げて考える力を養う。毎回の担当者を中心に発表形式とし、その後にディスカッションを行う。受講者全員の積極的な参加が求められる。	1. 現代のイギリス小説を原文で精読する力を身につける。(知識・理解・技能) 2. 自分の関心・疑問点について、当時の文化的・社会的背景と共に理解した上で、考察することができる。(知識・理解・思考・判断・表現、技能) 3. 自発的に関心・疑問を持ち、英文の解釈、背景の調査に積極的に取り組む姿勢を持つ。(思考・態度)	1. 現代のイギリス小説を原文で、ある程度、精読することができる。(知識・理解・技能) 2. 自分の関心・疑問点について、当時の文化的・社会的背景をある程度理解し、考察することができる。(知識・理解・思考・判断・表現) 3. 作品の精読を通して、何らかの疑問点を持ち、英文の解釈や背景の調査に取り組む。(思考・態度)
近・現代米文学研究I(近代アメリカ文学)	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	2	1	近代のアメリカ文学作品を取り上げて原文で精読することで、アメリカの文学及び文化的・社会的背景への理解と関心を深める。また、アメリカ文学作品を原文で味わう英語力を培い、受講者各自が的確に意見を表明するためのトレーニングを重ねる。	1. 近代のアメリカ文学作品の特徴を、アメリカの文化的・社会的背景と共に深く理解できる。(知識・理解) 2. 自分自身の問題意識から生じたテーマについて、先行研究を踏まえながら分析し、自分の意見を表現することができる。(思考・判断・表現)	1. 作品の原文を正確に理解し、近代アメリカ文学の中での個別の作品の位置づけを明確に理解することができる。(知識・理解) 2. 作品の読解を通して、自分自身の問題意識を持つことができる。(思考・判断・表現)
近・現代米文学研究II(近代アメリカ文学)	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	2	1	現代のアメリカ文学作品を取り上げて原文で精読することで、アメリカの文学及び文化的・社会的背景への理解と関心を深める。また、アメリカ文学作品を原文で味わう英語力を培い、受講者各自が的確に意見を表明するためのトレーニングを重ねる。	1. 現代のアメリカ文学作品の特徴を、アメリカの文化的・社会的背景と共に深く理解できる。(知識・理解) 2. 自分自身の問題意識から生じたテーマについて、先行研究を踏まえながら分析し、自分の意見を表現することができる。(思考・判断・表現)	1. 作品の原文を正確に理解し、現代アメリカ文学の中での位置づけを明確に理解することができる。(知識・理解) 2. 作品の読解を通して、自分自身の問題意識を持つことができる。(思考・判断・表現)
近・現代英米文学特講I(イギリス文学批評)	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	2	1	主にイギリス文学に関する、またイギリスの批評家による代表的な文学批評を読む。文学およびその批評を「読む」とはどのようなことなのか考える。毎回の担当者を中心に発表形式とし、その後にディスカッションを行う。受講者全員の積極的な参加が求められる。	1. 文学批評を、文学史や批評史を踏まえて、読解することができる。 2. 文学批評と具体的な作品を関連させて、考察することができる。(知識・理解・思考・判断・表現) 3. 文学批評の読解、文学研究を深めることに、積極的に取り組む姿勢を持つ。(思考・態度)	1. 文学批評を、文学史や批評史をある程度踏まえて、読解することができる。 2. 文学批評と具体的な作品をある程度、関連させて、考察することができる。(知識・理解・思考・判断・表現) 3. 文学批評の読解、文学研究を深めようとする態度が認められる。(思考・態度)
近・現代英米文学特講II(アメリカ文学批評)	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	2	1	主にアメリカ文学に関する、またアメリカの批評家による代表的な文学批評を読む。文学およびその批評を「読む」とはどのようなことなのか考える。毎回の担当者を中心に発表形式とし、その後にディスカッションを行う。受講者全員の積極的な参加が求められる。	1. 文学批評を、文学史や批評史を踏まえて、読解することができる。 2. 文学批評と具体的な作品を関連させて、考察することができる。(知識・理解・思考・判断・表現) 3. 文学批評の読解、文学研究を深めることに、積極的に取り組む姿勢を持つ。(思考・態度)	1. 文学批評を、文学史や批評史をある程度踏まえて、読解することができる。 2. 文学批評と具体的な作品をある程度、関連させて、考察することができる。(知識・理解・思考・判断・表現) 3. 文学批評の読解、文学研究を深めようとする態度が認められる。(思考・態度)
劇文学論	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	4	1	劇文学とは、おもに演劇の台本、つまり戯曲を文学としてとらえるものである。この授業では、そのとらえ方が具体的にどのようなものなのか、近・現代日本の演劇作品を取り上げていく。そして、その研究や評論、実際の上演舞台の映像なども参考にしながら、戯曲を読み、討論を行なっていくことによって明らかにしていく。	演劇に関するテキストを主体的に解釈することができる。(知識・理解)	演劇に関するテキストを正確に読むことができる。(知識・理解)
中・近世日本演劇研究	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	4	1	複数の歌舞伎作品を取り上げ、それぞれに関わるさまざまな上演資料の読解を深めながら、歌舞伎の上演実態に迫る。それと平行して、歌舞伎関連の研究論文の講読も進める。これにより、歌舞伎の上演に関わる様々な事象に関する知識と技術を高め、受講者それぞれの研究につなげる。	・歌舞伎の上演資料を多少のアドヴァイスを受けながら理解・解読することが出来る。(技能) ・歌舞伎の上演実態について、文字資料と関連づけながら把握することができ、そこから研究のアプローチを見つめることが出来る。(思考・判断・表現) ・授業で得た知識を自分の研究に活かすことが出来る。(思考・判断・表現)	・歌舞伎の基礎的な上演資料について説明することが出来る。(知識・理解) ・歌舞伎の上演実態と文字資料とがどのように結びついているか(あるいはどのような違いがあるか)を理解することが出来る。(知識・理解) ・授業の内容から研究のヒントを得ることが出来る。(思考・判断・表現)
英米演劇研究	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	4	1	主として初期近代イギリスの演劇テキストを、まずは、基本構造あるいは作品の内容(主人公、プロット、テーマ)、次に、修辭的構造あるいはパフォーマンスの形式を理解する。そのうえで、演劇テキストを、ジェンダー・セクシュアリティの視点、およびグローバルな視点から読み解いていく。	英国の演劇を、テキストの基本的構造をおさえたうえで、グローバルなメディア文化における意味や価値を、歴史的に、解釈し理解することができるようになる。(知識・理解)	英文で書かれたイギリスの演劇テキストの基本構造(主人公・プロット・テーマ)を分析し、理解することができる。(知識・理解)

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
ヨーロッパ演劇研究	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	4	1	近現代の西洋演劇の理論について英語資料を読み、それぞれの内容を理解していく。そのうえで、西洋演劇にかかわる、さまざまな情報を収集・整理して、演劇理論のあり方について議論を重ねてゆく。	・英語で書かれた文献を十分に読みこなすことができる。（知識・理解）（技能） ・演劇理論の総体を理解し、戯曲や上演について具体的に論じることができる。（技能）（思考・判断・表現）	・英語で書かれた文献をある程度読むことができる。（知識・理解）（技能） ・演劇理論の総体を基本的に理解し、戯曲や上演について論じることができる。（技能）（思考・判断・表現）
演劇学文献研究B（近・現代日本演劇）	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	4	1	演劇研究を進める基礎的な段階として、多様な資料の扱い方や分析方法を学びつつ、具体的な作品研究を行ってゆく。近・現代日本演劇の戯曲を読み、それがどのように上演され、観客に受容されたかという過程を追うこととする。	・近代演劇の研究の基礎的な知識を身につける。（知識・理解） ・演劇研究の基礎資料の扱い方や分析方法を身につける。（技能） ・戯曲を読み、考察し、上演の問題も含めて分析できるようになる。（思考・判断・表現）	・近代演劇の研究の概略を理解できるようになる（知識・理解） ・演劇研究の基礎資料に触れながら調査ができるようになる（技能） ・戯曲を読み、考察することができるようになる（思考・判断・表現）
芸術論基礎研究	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	4	1	美術史学の方法論について学び、研究の実践に役立てるばかりでなく、イメージの性質、その生成と受容、機能、芸術という営み自体について理解を深める。方法論的な考察を通して、美術のみならず、文学・芸術・文化の研究全般に寄与する視座を身につける。	1. 美術史学の方法論について十分な知識をもち、詳細に説明することができる。（知識・理解） 2. イメージの性質。聖性と受容、機能、芸術自体について、十分な知識をもち、詳細に説明することができる。（知識・理解） 3. 方法論を応用して高度な研究を行い、研究発表、レポートを作成することができる。（思考・判断・表現） 4. 文学・芸術・文化の研究全般に寄与する高度な視座を研究発表、レポートに反映させることができる。（関心・意欲・態度）	1. 美術史学の方法論について基本的な知識を持ち、説明することができる。（知識・理解） 2. イメージの性質。聖性と受容、機能、芸術自体について、基本的な知識をもち、説明することができる。（知識・理解） 3. 方法論を応用して研究を行い、研究発表、レポート作成を行うことができる。（思考・判断・表現） 4. 文学・芸術・文化の研究全般に寄与する視座をもちっている。（関心・意欲・態度）
比較芸術研究	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	4	1	美術史に足場を置き、特定の時代・地域・ジャンル・芸術家を対象として、表現形式や内容に、異なる時代や地域の影響、芸術家相互の影響、社会的機能がどのように作用しているかを理解する。それに加えて、作品がどのように受容されたか、複合的な観点から他の芸術領域との関係についても考察する。	1. 美術作品の表現形式や内容に見られる諸種の影響について高度な知識をもち、詳細に説明することができる。（知識・理解） 2. 作品の受容について高度な知識をもち、詳細に説明することができる。（知識・理解） 3. 複合的な観点からさまざまな芸術領域との関係について深く考察し、研究発表、レポート作成を行うことができる。（思考・判断・表現）	1. 美術作品の表現形式や内容に見られる諸種の影響について知識をもち、説明することができる。（知識・理解） 2. 作品の受容について知識をもち、説明することができる。（知識・理解） 3. 複合的な観点からさまざまな芸術領域との関係について考察し、研究発表、レポート作成を行うことができる。（思考・判断・表現）
比較文学研究	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	4	1	文学に関する基本理論について多角的に捉え、文学の蘊奥を攻めつつ、その上でフランス語圏の特定の時代、特定の地域、特定のジャンル、あるいは特定の文学者、詩人、芸術家を対象として、その様式の展開、背景となる文芸潮流、表現内容、意味作用、異なるジャンル間の影響関係、社会的機能などが作品にどのように作用しているか、作品がどのように受容されているかについて検討する。	1. フランス語の文献を正確に読解できる。 2. フランス語のテキストの文脈を理解し、日本語で正確に説明できる。 3. フランス語圏の文学・芸術を、自身の文化とも比較しながら、正確に関係づけることができる。 4. 文学・芸術の比較において、多面的・総合的に系統立てることができる。	1. フランス語の文献をおおまかに読解できる。 2. フランス語のテキストの文脈を部分的に理解し、日本語で説明できる。 3. フランス語圏の文学・芸術を、自身の文化とも比較しながら、関係づけることができる。 4. 文学・芸術の比較において、系統立てることができる。
文芸と歴史研究	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	4	1	この授業では、織田信長の一代記として最も良質かつ重要な史料である太田牛一『信長公記』を中心素材として、戦国時代から近世社会への時代転換を教授していく。必要に応じて、原本の写真版のほか、関連資料も参照して読みすすめていく。	1. 織田信長の天下統一過程と、それに関連する史料についての深い知識を習得している。（知識・理解） 2. 戦国時代の史料・歴史書を正確に読解する能力が身につけている。（技能） 3. 戦国時代の社会変動と文学・芸術の関係について理解している。（知識・理解） 4. 歴史学の方法論を応用して研究を行い、研究発表、レポート作成を積極的に行うことができる。（思考・判断・表現） 5. 文学・芸術・歴史の研究全般に対する高い関心・意欲をもって授業に積極的に臨んでいる。（関心・意欲・態度）	1. 織田信長の天下統一過程と、それに関連する史料についての概要を習得している。（知識・理解） 2. 戦国時代の史料・歴史書を一通り読解する能力が身につけている。（技能） 3. 歴史学の方法論を応用して研究を行い、研究発表、レポート作成を行うことができる。（思考・判断・表現） 4. 文学・芸術・歴史の研究全般に対する関心・意欲をもって授業に臨んでいる。（関心・意欲・態度）
文芸とメディア研究	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	4	1	文学・芸術を柱として高度な研究を志す者にとって、その成果を伝達することを通じて、文化の次なる担い手の豊かな人間性を形成することはいわば責務である。ここでは、そのための営みである教育を「知の総合伝達メディア」ととらえ、各自の専門研究成果をコンテンツとしてその伝達実践力を高めるための討議の場とする。	・知の総合伝達メディアとしての教育について確かな認識をもつ。（知識・理解）（関心・意欲・態度） ・専攻分野における自らの研究テーマの位置づけ、意義づけをする。（技能）（思考・判断・表現） ・研究成果を他者に伝達することを研究者の責務として自覚する。（関心・意欲・態度） ・研究の進捗状況報告と質疑応答を通して、クリティカルマインドを鍛える。（技能）（関心・意欲・態度） ・文学、芸術分野について学ぼうとする者のニーズに応じられる的確な指導能力を修練する。（技能）（関心・意欲・態度） ・文学、芸術、メディアの専門分野についての継続研究に向う意欲をもつ。（関心・意欲・態度）	・知の総合伝達メディアとしての教育について理解する。 ・研究テーマを紹介し、テーマ設定の趣旨を説明する。 ・研究成果を他者（次なる文化の担い手）に伝達することの意義を考える。 ・研究の進捗状況を報告し合い、クリティカルマインドを身につける。 ・知の総合伝達メディアとしての教育に主体的に関わる態度をすることができる。
文芸学特講ⅠA（フランスの文学と社会）	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	2	1	フランスの小説、詩、戯曲あるいは批評などの文学作品を読解する。そして、宗教と世俗の関係、階級の変動、教育の普及、さらに男女の「社会的関係」などを理解し、これらの社会的表象とその表象との関係を考察していく。原文を十分に尊重しながら、信頼のおける翻訳を速読、精読していく。	・フランスの文学作品をよく理解し、深く味わうことを可能とする鑑賞能力を身につける。（知識・理解） ・文学作品の主題を自らの経験にひきつけて適切に意味づけることができる。（関心・意欲・態度） ・社会的表象とその表象との関係を十分に理解し、作品を分析することができる。（思考・判断・表現）	・フランスの文学作品を大まかに理解し、味わうことを可能とする鑑賞能力を身につける。（知識・理解） ・文学作品の主題を自らの経験にひきつけて自分なりに意味づけることができる。（関心・意欲・態度） ・社会的表象とその表象との関係の概略を理解し、作品を分析することができる。（思考・判断・表現）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
文芸学特講 I B (フランスの文学と文化)	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	2	1	フランス語圏の小説、詩、戯曲あるいは批評などの文学作品を読解する。そして、宗教、思想あるいは風習など「文化的背景」を理解していくことで、これらの文化的背景とその表象との関係を考察していく。原文を十分に尊重しながら、信頼のおける翻訳を速読、精読していく。	・フランス語圏の文学作品をよく理解し、深く味わうことを可能とする鑑賞能力を身につける。(知識・理解) ・文学作品の主題を自らの経験にひきつけて適切に意味づけることができる。(関心・意欲・態度) ・文化的背景とその表象との関係を十分に理解し、作品を分析することができる。(思考・判断・表現)	・フランス語圏の文学作品を大まかに理解し、味わうことを可能とする鑑賞能力を身につける。(知識・理解) ・文学作品の主題を自らの経験にひきつけて自分なりに意味づけることができる。(関心・意欲・態度) ・文化的背景とその表象との関係の概略を理解し、作品を分析することができる。(思考・判断・表現)
文芸学特講IIA (欧米の書誌学)	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	2	1	欧米の書誌学に関するフランス語の基本的文献を用いて、個々の図書の物理的特徴(書誌事項)を記述する分析書誌学、一定の方式によって文献の書誌事項を配列した書誌(文献リスト)、欧米における書誌学についての知識を得る。その上で実際に書誌の活用の可能性を模索する。	1. 書誌に関する資料を正確に読解できる。 2. 書誌の活用方法を日本語で正確に説明できる。 3. 実際にモデルとなる文献リストを作成することができる。 4. 書誌の活用法を複数提示することができる。	1. 書誌に関する資料を読解できる。 2. 書誌の活用方法を日本語で説明できる。 3. 実際にモデルとなる文献リストの下書きを作成することができる。 4. 書誌の活用法を一項目提示することができる。
文芸学特講II B (メディアの日米比較)	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	2	1	文学・芸術を柱として高度な研究を志す者にとって、その成果を伝達することを通じて、文化の次なる担い手の豊かな人間性を形成することはいわば責務である。そのための営みである広義の教育を、ここでは「知の総合伝達メディア」ととらえ、例えばI. IllichのDeschooling Society、L. MastermanのTeaching The Media など、知の伝達とメディアの本質をめぐる研究・論考の中からテキストを選び、輪読・精読する。	・テキストを自在に読解し、分析・批評する。(知識・理解) (技能) (思考・判断・表現) ・民主主義とメディアについて確かな課題認識をもつ。(知識・理解) (関心・意欲・態度) ・文学、芸術を柱とする知の総合伝達メディアとしての教育に主体的に関わる。(技能) ・研究成果の伝達のための具体的・実践的方途を提案・実践する。(技能) (思考・判断・表現)	・テキストの輪読に主体的に参加する。(関心・意欲・態度) ・民主主義社会におけるメディアの意味について理解する。(知識・理解) ・文化の伝達はおよそ高等専門教養を身につけた者の責務であることを認識する。(関心・意欲・態度) ・「知の総合伝達メディア」としての教育が文学・芸術の創造に貢献する方策を探究し続けることができる。(技能) (関心・意欲・態度)
文芸学特講IIIA (中国の文学と文化)	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	2	1	世界各地の文学と文化は、それぞれの地域に独自の要素と共通する要素を背景にして誕生し、発展してきた。また、個々に展開するのではなく、お互いに影響し合って発展してきた。こうした背景を理解しつつ、幅広い文学作品を読解し、鑑賞する。	・文学・芸術作品の表現を、時代や地域の背景を踏まえた上で、正確に理解することができる。(知識・理解) ・中心テーマとなる作品に関係している作品・類似している作品などを積極的に探し、比較することができる。(関心・意欲・態度) ・扱う作品についての批評的なテキストを読み、その内容を比較検討した上で独創的な考察を展開することができる。(思考・判断・表現)	・文学・芸術作品の表現を、時代や地域の背景を踏まえた上で、理解することができる。(知識・理解) ・中心テーマとなる作品に関係している作品・類似している作品などを探し、比較することができる。(関心・意欲・態度) ・扱う作品についての批評的なテキストを読み、その内容を比較検討した上で自分なりに考察を展開することができる。(思考・判断・表現)
文芸学特講IIIB (日本の文学と美術)	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	2	1	絵巻を通じて、テキスト(詞書)とイメージ(絵)が相互に補完し合って成立する文化について理解する。平安時代から鎌倉時代の絵巻作品の詞書翻刻や現代語訳、また画面の様式分析を行う能力を身に付ける。その上で、絵巻制作の社会的な意義について、信仰や政治などとの関係性から理解を深める。	1. 古代・中世絵巻の主要作品について十分な知識をもち、詳細に説明することができる。(知識・理解) 2. くずし字が十分読めるようになり、翻刻や現代語訳ができる。(技能) 3. 学術書の構造を十分に理解し、自ら主体的に読みこなせるようになる。 4. 絵巻制作の社会的な意義を、信仰や政治などとの関係性から考察する視点を十分獲得している。(関心・意欲・態度)	1. 古代・中世絵巻の主要作品について基本的な知識をもち、詳細に説明することができる。(知識・理解) 2. くずし字がある程度読めるようになり、基本的な翻刻や現代語訳ができる。(技能) 3. 学術書の構造をある程度理解し、基本的な事柄が読解できる。 4. 絵巻制作の社会的な意義を、信仰や政治などとの関係性から考察する視点を部分的に獲得している。(関心・意欲・態度)
論文研究	文芸学研究科 文芸学専攻 論文指導	2	2	修士論文を完成するための実際的な知識と技能を身に付ける。修士論文の提出期限に合わせ、計画的に調査・分析・考察・執筆を行い、論文の完成を目指す。	1. 修士論文を完成するための実際的な知識が十分に身に付いている。(知識・理解) 2. 修士論文を完成するための実際的な技能が十分に身に付いている。(技能) 3. 計画的に調査・分析・考察・執筆ができており、修士論文が完成している。(思考・判断・表現)	1. 修士論文を完成するための基礎的な知識が身に付いている。(知識・理解) 2. 修士論文を完成するための基礎的な技能が身に付いている。(技能) 3. 計画的に調査・分析・考察・執筆ができている。(思考・判断・表現)